

台風30号接近に伴う農作物等の技術対策

令和8年10月22日
南筑後普及指導センター

「台風30号」が北上し、福岡県には10月25日以降に最接近することが予想されておりますので、以下の事項等について指導をよろしくお願いします。

ほ場・農業用施設の見回りの際には、気象情報を十分に確認し、大雨や強風がおさまるまでは行わないで下さい。また、大雨等がおさまった後の見回りや事後対策を行う際においても、増水した水路など危険な場所には近づかず、人命を最優先に事故の防止を徹底するようにお願いします。

【普通作】

1 水稻

- (1) 収穫期となっている水稻は、できるだけ台風襲来前に収穫を行い、台風通過後に収穫する場合には落水して、台風通過後速やかに収穫する。
- (2) 成熟期が近いほ場で台風の影響により倒伏した場合は、台風通過後早急に落水して、穂発芽を防止する。
- (3) 倒伏が発生した場合、高水分籾が荷受けされるため、共乾施設は乾燥時間がかかることを想定して荷受けを行う。

2 大豆

- (1) 大雨による停滞水を出来るだけ早くほ場外に排出するため、畦溝や排水溝の整備を行う。
- (2) 台風通過後は、再度、排水溝の点検整備を行い、早急に排水を図る。
- (3) 倒伏程度が大きい場合には、コンバインにリフターキットを取り付けて収穫を行うことで収穫ロスや汚損粒の発生を軽減できる。

【施設（野菜・花き・果樹共通）】

1 事前対策

(1) 共通

- 1) 施設周囲の排水溝を整備もしくは清掃し、施設内への雨水の浸入を防ぐ。
- 2) ハウス周囲にある飛散しそうな物は片付ける。
- 3) 加温機の煙突を片づける。また、オイルタンクの元栓は閉めて、本体が倒伏しないように十分固定する。
- 4) 出入り口の施錠や妻部の換気口等の固定を行う。
- 5) 農業用機械や器具は、風雨や浸冠水被害にさらされないように、格納庫など安全な場所に保管する。
- 6) 養液栽培等、停電による影響が大きい施設では、事前に自家発電機を準備する。

(2) パイプハウス

- 1) 被覆フィルムの破損部分の補修を行う。
- 2) フィルム浮き上がり防止のため、ハウスバンドの増し締めと本数の追加、ネットで被覆、換気扇の運転等を組み合わせる。
- 3) 雨除けハウスはサイドフィルムを下ろし、妻部分もフィルムを張り、隙間風が入らないようにする。
- 4) 施設の強度が劣っている場合は、ハウスを補強する。また、風向き（危険半円・可航半円）、風速によっては被覆フィルムを剥ぐことも想定しておく。

(3) 温室

- 1) 引き違い窓の施錠を行う。
- 2) 天窓、押し上げ窓が自動になっている場合は、手動に切替えて完全に締め切っておく。

2 事後対策

- (1) 施設の損傷、緩み等の有無を点検し、速やかに補修する。
- (2) 泥等を洗い流し、病害予防のため防除基準に基づいて低濃度の殺菌剤を散布する。
- (3) 停電復旧後は、直ちにタイマー等の調整を行う。

【野菜】

冠水や浸水の恐れのあるほ場は排水対策を行う。

台風通過後は、浸・冠水したほ場は速やかに排水を促し、茎葉に付着した泥等を真水で洗い落とし、殺菌剤を散布する。また、台風の進路予想から塩害が発生しやすいと思われる。潮風により作物に付着した塩分は十分量の真水で洗い流す。台風通過後に草勢が低下した施設果菜類は、摘花や摘果などで草勢回復を図る。

病害予防のために殺菌剤等を散布する場合は、地域の防除基準等をよく確認の上、実施する。

1 野菜苗

未定植の苗（ポリポット、セル成型苗）は倉庫等の安全な場所に搬入する。

2 露地野菜

- (1) マルチ被覆している所では、強風ではがれないよう固定しておく。
- (2) 冠水や浸水の恐れのあるほ場は排水対策を行う。
- (3) 台風通過後は、茎葉に付着した泥等を真水で洗い落とし、殺菌剤を散布する。散布用の水は事前に準備しておく。
- (4) 塩害が予想される場合は早めに真水を散水し、茎葉に付着した塩分を洗い流す。

3 イチゴ（ビニル被覆前の場合）

→ ビニル被覆している場合は前述【施設（野菜・花き・果樹共通）】の項を参照

- (1) ビニル被覆していないほ場で、被覆している寒冷紗があれば除去する。
- (2) 資材の飛散防止のため、かん水チューブは取り外し片付けておく。また、頭上かん水施設はマイカー線等で固定する。電照用電球等はソケットから外す。
- (3) 露地状態の棚式育苗や高設栽培施設は、架台を補強する。また、親株苗がある場合は、防風ネット等で被覆する。

【果樹】

1 事前対策

- (1) 防風林、防風ネット、果樹棚等の点検と補強を行う。
- (2) 排水溝の整備、点検、補修を行う。
- (3) 収穫期に達している果実は速やかに収穫する。
- (4) 棚栽培の果樹では、園内を点検し、誘引がゆるんだ部分があれば棚面に再誘引する。また、果実が棚線に接しないように注意して結果枝の誘引を行う。なお、棚揺れによる落果を軽減するため、支柱の追加やらせん杭等を使った棚の引き下げ等を行い、棚揺れを軽減する。なお、イチジクの一文字整枝は、結果枝の誘引を確実にを行う。
- (5) 立木栽培は、枝折れや倒伏防止のため、支柱を立てて固定する。
- (6) カンキツのシートマルチ栽培園は、シートの飛散や破損防止のため、押さえの補強、または樹冠下への収納、結束を行う。

- (7) 幼木は、強風に弱く、主枝、亜主枝等の損傷を受けやすいため、支柱等により固定する。
- (8) 海岸沿いの樹園地では、潮害に備えて、散水用の動噴やスプリンクラーなどの点検整備を行い、併せて十分な用水を確保しておく。

2 事後対策

- (1) 海岸沿いの樹園地では、降雨が少ない場合、潮害により落葉等の被害が発生するため、塩分付着後6時間以内に、十分量の散水で洗い流す。
- (2) 外観的には目立たなくても果実や枝葉に強風による微細な傷ができ、病原菌侵入が予想されるので、台風通過後には速やかに各地域の防除暦に従って薬剤散布を行う。
- (3) 冠水や浸水した場合は速やかに排水を促す。
- (4) イチジクでは台風通過後に傷果や腐敗果を廃棄処分する。
- (5) 樹体が傾いたり根が露出したりした場合は、株を起こし、株元に土を寄せて固める。また、枝折れ等の樹体の損傷を受けた場合は、健全部まで切り戻し、切り口を塗布剤で保護する。

【花 き】

冠水や浸水の恐れのある場合は、排水溝を整備し排水に努める。マルチの浮き上がり防止のため、土または専用資材を活用し固定する。

1 事前対策

- (1) 切り花は、支柱を補強し、ネットの弛みをなくす。また、畝を横断し支柱をロープ等で連結する。
- (2) 切り花の株は、数株をまとめて、紐で結束し固定する。
- (3) 収穫可能なものは、早めの収穫を行う。
- (4) 鉢物、苗物等では、苗の飛散や鉢の落下を防ぐため、寒冷紗や防風ネット等でのべたがけやベンチ等の棚ごと覆い固定する。
- (5) 停電に備え、自家発電機やかん水用の水を準備する。電球等はソケットから外す。

2 事後対策

- (1) 冠水や浸水した場合は速やかに排水を促す。
- (2) 株が倒伏した場合は、茎曲りを防ぐため直ちに株を起こす。
- (3) 台風通過後は、葉茎に付着した泥を洗い流し、病害対策を行う。
- (4) 台風通過後は、寒冷紗等は速やかに除去する。
- (5) ベンチ等の棚から落下した鉢物は、早めに立て直す。
- (6) 停電復旧後は、直ちにタイマー等の調整を行う。
- (7) 台風通過後は、電照を再開する。キクは、2日以内の停電であれば、花芽分化の可能性は低い。

【畜 産】

1 飼料作物

- (1) 冠水や浸水の恐れのある場合は、排水溝を整備して排水に努める。台風接近前に収穫が可能と判断される場合は、予乾の時間が短くなるため、乳酸菌製剤の添加を検討する。
- (2) ほ場に水が停滞した場合は、排水口等の整備を行い、速やかに排水を図る。
- (3) 降水量が多い場合は、肥料の流亡も多くなるので、収穫までの期間が長い場合、追肥の実施を検討する。

2 家畜

- (1) 強風に備えて畜舎を補強する。カーフハッチ等軽量物は固定する。
- (2) 大雨に備えて畜舎内外の排水溝の流れを点検する。
- (3) 畜舎内に雨が入らないように破損箇所は事前に修理する。
- (4) 停電に備えて自家発電装置への給油と作動確認等の準備を行う。
- (5) 尿溜めや堆肥舎に雨水が流入しないように防水対策を実施する。
- (6) 台風通過後、気温が急上昇する場合があるので、風雨がおさまったら速やかに換気を行い、敷料の交換等をして畜舎内を乾燥させて家畜の快適性を確保する。
- (7) 畜舎内への浸水があったところでは、衛生管理に注意し、水洗のあと、消毒をおこなう。